Awara News

あわらニュース vol.48

平成25年11月5日発行

「多くの人の笑顔のために」

- 障害児（者）、血液・免疫、長寿をはじめ、地域に求められる医療を提供します。
- 患者さまの目線に立って、すべての患者さまに懇切丁寧な医療を実施します。
- 医療技術、安全管理の研究・研修につとめ、より質の高い医療を追求します。
- 国立病院としての公共性を確保のもと、効率的で自立した病院経営を推進します。

中学生の職場体験

教育担当看護師長　金牧 香代子

8月21、22日の2日間、地元の芦原中学校2年生5名が職場体験学習に来ました。各職場をまわり、研究検査科では、顕微鏡をのぞき血液細胞を見て驚き、放射線科では、レントゲンの機械を動かして、女性でも簡単に軽い力で操作できると感激していました。栄養管理室では、清潔に管理されていることを知り、食材の試食で一息入れ、楽しみながら食品の成分を学びました。病棟では、患者さんの手浴を体験し、優しく声かけしながらケアをする看護師が好印象だったようです。生徒達は、白衣を着て大変喜んで2日間を終え、この職場体験を通して、個々の進路への選択肢が増えたと話していました。今後もこのような教育活動に協力していきたいと思います。

地域密着型医療の推進について

当院の基本方針は、『多くの人の笑顔のため（患者さん、地域の皆さん、職員）』であり、それに基づく医療は、患者さんの目線に立った親切丁寧な医療を提供することをモットーとしています。

当院の診療科は大学病院のように多くの診療科はありませんが、特定の専門分野を得意とする診療科です。

昭和50年より診療を開始した重症心身障害児（者）の医療においては、診療、リハビリテーション、看護、療育指導からなるチームにより入院患者さんの日常生活を支援しています。また、患者さんご家族への支援として、生活介護、短期入所、発達相談などを通じて、患者さんには日常療育の支援、ご家族には介護負担の軽減支援を行っています。

血液・腫瘍疾患の難治性治療や免疫異常疾患のリウマチ治療においては、福井県内では数少ないリウマチ専門医である院長が治療を行っています。関節の痛み等が治らない場合、一度受診してください。

あわら市の人口は、約3万人ですが、20％強が70歳以上の高齢者です。今後は更に高齢者人口が増加する傾向です。あわら市北部には医療機関が少なく、当院では近隣診療所が勧められている在宅医療の後方支援や介護施設の後方支援を行うとともに、当院の医師や看護師が在宅治療を行われている患者さまに訪問し、診察や看護を行っております。

事務長
雒村　雅史

また、在宅療養中の神経難病患者さんが、一時的な入院診療（レスパイト）を利用される際は、ご要望に応じてご自宅まで当院の福祉車輌によりお迎えに行き、退院時には自宅までお送りしています。是非、ご利用ください。

今後においても、当院ではより地域に密着した高齢医療福祉ネットワークを活用しながら、地域全体の医療水準の向上と医療サービスの充実を推進して参りますので、よろしくお願いいたします。

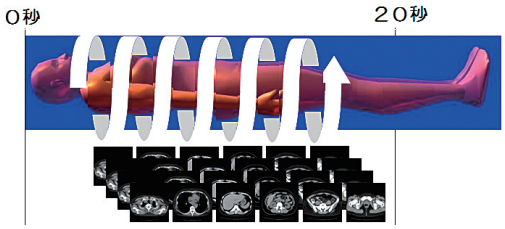
CT装置を更新しました

6月に16列X線CT装置を導入いたしました。従来機に比べ16列CTの特徴は、①1回転で最大16スライスを一度に撮影出来る為、検査時間が当院の従来機に比べ約1／3（10～15秒程度）に短縮されました。②高精細な画像で、3D（立体的な画像）やMPR（任意な角度の画像）等の画像が作成できます。③大動脈・静脈等の広範囲における血管撮影などが可能です。④付属の大腸仮想内視鏡の機能と大腸内視鏡検査と併用することで診断が高まります。

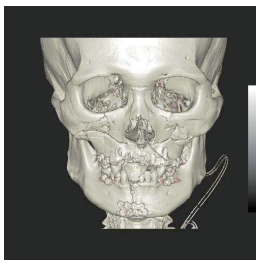
当院では随時CT検査を行っていますので、来院時に併せて検査できます。遠隔画像システム導入に伴い、検査結果は検査の翌日には検査報告書をお渡しできます。

なお、委託検査を希望する病院・診療所様は、地域医療連携室（内線785）にお問い合わせください。

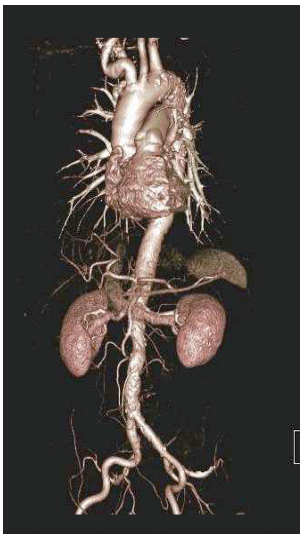
CT装置の外観



短時間での撮影が可能



顔面骨折の画像



胸腹部の血管描出

仮想内視鏡の画像

地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介いたします

社会福祉法人 白女林（しろんばやし） みくにの森クリニック

「みくにの森クリニック」は、元「白楽荘診療所」と称していました。名称を変更したのは平成24年9月からなので、まだなじみの無い方が多いかも知れません。白楽荘診療所というと特別養護老人ホームの利用者か関係者のためにあるかの受け止め方をされていたようですが、地域の方に開かれた医療機関であることを認知していただきたいとの思いから名称変更をいたしました。といっても以前の診療守備範囲を拡大出来るわけでは無く従来通り高齢者慢性疾患管理と外来で出来る治療だけの範囲に限られています。あわら病院様には、在宅診療の後方支援機能をお願いして、いつもお世話になり有り難うございます。今後も宜しくお願い致します。

管理医師 牧　洋

みくにの森クリニック

〒913-0061 福井県坂井市三国町梶49-18／TEL（0776）82-6818

診療科目：内科

診療時間：【月・火・水・金】9:00～13:00／【木】9:00～13:00、14:00～17:30

休 診 日：土曜日・日曜日・祝日

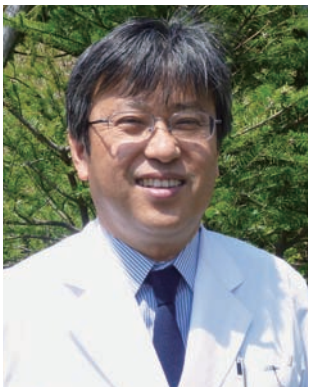
禁煙外来・認知症相談：禁煙外来・認知症相談は予約制です。事前にお電話にて予約を承ります。お気軽にお問合せください。予約電話番号：0776-82-1282／予約受付時間：8:30～17:30

「支える医療」の充実：ICF（国際生活機能分類）を利用して

最近、医療と地域を結ぶ共通言語としてWHO（世界保健機関）が提唱した国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF）が注目されるようになってきています。ICFとは人間が普段の生活や人生において行ったり関与したりしていることを、「心身機能」、「身体構造」、「活動と参加」、「環境因子」の領域に大別し、さらに詳細な項目で詳細に分類したもので、それらの項目を評価することにより個人の生活機能全体を捉える方法です。

ICFの中で「活動と参加」の領域は、「会話する」・「食べる」・「仕事をする」・「趣味を楽しむ」などの項目があり、個人の生活・人生をカバーする領域です。この領域の項目はすべて2つの状況、すなわち個人が実際の生活で実施している状況と、治療を受けた結果や家族の援助、福祉サービスを受けた結果で達成できる状況を評価されます。つまり、この「活動と参加」を評価することにより、疾病や障がいのため今は不可能でも、医学的支援や社会的支援によりどこまで生活機能がよくなり、どのような生活や人生をめざすことができるかを明らかにすることができるのです。

超高齢者社会を迎えようとしている今、現実に起きた健康問題に対して、治癒や予防だけを目標とするだけの医療だけでは不十分で、とくに慢性疾病や障がいを持っている場合では目標を達成できずに行き詰ってしまい、医療難民を生み出すことにもなりかねません。どんな条件であろうと、可能な限り充実した生活や人生を送ることを目標として患者さんを支えるためには、ICFのような総合的な考え方が必要であり、多くの経験や知識のもと医療のみならず環境整備や支援方法の引き出しを沢山もっている人材が不可欠です。



院　長
津谷　寛

私たちの病院でも、自己免疫疾患など難病により生活が不自由になっている方に以前よりICFによる統合的なアプローチ方法をとってきて、各職種のスタッフの経験値は確実に増えています。現在、がんや神経難病で苦しむ方や、障がい児（者）の方にも適用を広げようとしていますが、ICFを用いた評価は、複雑で困難な健康状態や生活状況でも支援しようすることの柱となる考え方であり、当院が提供する「支える医療」の充実のためにさらに活用していきたいと考えています。

外来担当医表

（平成25年11月1日現在）

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	津谷	大槻	見附	（交替制）	久嵜
	小児科	大坂＊	川満＊	大坂＊	大坂＊	川満＊
専門	血液・リウマチ			津谷／浦崎＊	津谷	
	痛風	津谷＊				
	生活習慣病			西坊（第1・3）		
	老年			桐場（第2・4・5）		桒田
	神経					濱野／松永＊
	循環器	見附	見附			
	小児神経		川満			川満
	外科	齊藤	齊藤	齊藤	齊藤	齊藤
	整形外科	長谷川			相川	
	眼科				吉岡＊	
	皮膚科		若原			若原
	地域ケア					桐場

● 受付時間8:30～11:30　● 黄色枠は予約制　● ＊印は午後診察　● 休診日／土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日・金曜日の午前中（9:00～11:00）です。

※神経内科の診察は、第2金曜日（14:00～17:00）です。〔奇数月:濱野／偶数月:松永〕

※専門内科の午後診察は、14:00～16:00です。

住み慣れた地域でがん治療を

地域医療連携室室長　**桐場 千代**

がんは日本での死因の第1位、現在、日本人が生涯でがんにかかる可能性は約2人に1人といわれています。また、『がんになっても、住み慣れた地域で治療や療養生活を送りたい』と考える患者さんやご家族が増えてきており、治療を受けながら地域の中で満足できる生活や社会参加ができるよう『支える医療』が重要になってきました。

当院では、入院・外来・訪問診療（看護）と治療の場の選択肢があり、化学療法、輸血、急性増悪時の治療、緩和ケア、看取りなど様々な場面で、地域の病院として患者さんとご家族の望まれる形での診療を提供できるよう取り組んでいます。拠点病院の専門医と在宅かかりつけ医の連携の間で、維持化学療法や輸血療法、発熱や食欲不振の一時入院、疼痛コントロールなど、当院のような地域の病院だからこその役割を果たしています。

これからも、拠点病院や地域の診療所の先生方と連携しながら、『がんになっても、住み慣れた地域で治療や療養生活を送りたい』という坂井・あわら地区の患者さんの思いを支える医療を提供していきたいと考えています。

独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1　TEL.0776-79-1211（代表）FAX.0776-79-1249

〈地域医療連携室〉TEL.79-1212内線（785）FAX.0776-79-1261

URL http://www.hosp.go.jp/~awara/

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液・腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
呼吸器科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

【病床数】172床

【教育】日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より（5km）
①京福バス（北潟花菖蒲園行き、あわら病院前下車）
②乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］
③当院シャトル便（直通）

JR北陸本線芦原温泉駅より（10km）
①京福バス（あわら湯の町駅で乗換）
②乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］
③当院シャトル便（あわら湯の町駅経由）

※出発時間は、受付に備え付けの時刻表、またはホームページ（交通案内）をご覧ください。